

(その1)

私は法科大学院への進学を希望しており、今回のロースクールキャラバンに参加させていただきました。ロースクールキャラバンでは、実際に、学部よりも一歩も二歩も踏み込んだ内容の講義を受け、実務家の先生から書籍では学べない現実の問題のご提示をいただくことができました。以前から大学院の先輩にお話を伺う機会はありませんでしたが、今回の体験のおかげで大学院進学を身を持って実感し、その魅力に触れることができました。今回学んだことを忘れず、今できることに尽力したいと思います。

(その2)

平成26年11月29日(土)、北海道大学にて「法科大学院がわかる会」が開催されました。

北海道に在る法科大学院二校の関係者の方々のご協力の下、当日は、法科大学院に興味を示す多くの大学生が参加し、大変活気と実りのある時間を過ごすことができました。

第1部では、北海道大学法科大学院で教鞭をとられる実務家の先生のお話を聴かせて頂き、その後は、同大学院で日本国憲法を教えていらっしゃる佐々木教授の模擬授業を受講致しました。

弁護士を目指す私にとって、実務家である先生のお話しする弁護士の仕事内容について、大変興味深く拝聴しました。また、憲法の模擬授業は、「違憲審査基準」における知識を再度確認し、また、新たな気付きを得ることができ、憲法に対する興味がより一層強いものとなりました。

続いて第2部では、法科大学院二校の教授の方々と学生、そして両校出身の弁護士の先生方を交えた討論会が行われました。

大学生のうちから自主的にこのような会に参加し、司法試験の合格、そしてその先の法曹としての活躍を目標として、教授の方々や先輩方に、具体的な勉強方法や大学院に入学した際の時間の使い方などを質問する参加者の姿は、法曹界を目指す希望に満ち、熱意に溢れていました。

学問を「理解」するには、まずは基礎知識の定着が要であるように思います。その基礎知識の定着は、その学問の専門家である教授の下で指導を受け、仲間と議論しながら、繰り返し壁にぶつかりつつ修正する作業が必要です。

「今、なぜロースクールで学ぶのか。」

法律学の専門家である教授の下で指導を受け、大学院の仲間と議論しながら成長を遂げていく。特に法曹の養成にはそのような環境が必要だからこそ、「今、ロースクールで学ぶ」のだと思います。その気付きを胸に、これからも大学院で法律学と向き合い、より良い法曹を目指す所存です。この度は、素晴らしい会に参加させて頂き、誠にありがとうございました。

(その3)

私は今回のロースクールキャラバンに参加して、一番興味を持ったことは法律実務家の先生による授業でした。学部生活では中々接することのない実務家の方の授業はとても魅力的でした。個人的に付き合いのあるロースクールに通っている先輩の話でも実務家の先生の方の授業はとても面白いと聞いたので、今回のキャラバンで一層その授業を受けてみたいと思いました。

また、学部では大講義室で開かれる授業ですが、ロースクールでは割と少人数で授業を行っており、先生と学生の距離の近さを感じました。

今回キャラバンに参加してより一層進学に向けて頑張ろうという気になりました。